

課題の分析を受けた投薬業務の方向性

行政の活用

民間の活用

最終的に目指す姿

動物用医薬品の適正使用が推進され、獣医療の効果や農場の生産性を向上させながら疾病（耐性菌含む）の発生が制御されている状態

STEP1（現状把握）

STEP2（データ分析）

STEP3（データ活用）

内容

国内で使用されている動物用医薬品（特に要指示薬）の使用実態を行政、獣医師、生産者が把握し、集計することができる

投薬業務に関わる複数のデータを組み合わせ、比較や考察ができるようにする

収集、分析したデータを遠隔診療や農場のコンサルティングに活用する

必要なこと

- 指示書を利活用できる仕組みの構築
- 普及活動により動物用医薬品使用記録の記載率を向上させる
- 動物用医薬品の購入量や使用量を電子的に管理する仕組みの構築

- 他データ（疾病発生状況、薬剤感受性など）との紐づけ
- 使用記録分析ツールの構築
- 他地域、他農場とのデータ比較ができる仕組みの構築
- ベンチマーク手法の構築

- 獣医師と生産者のコミュニケーションツールの構築
- 遠隔診療や農場コンサルティング時へのデータ活用
- 優良事例の共有

STEP1を優先に、段階を踏んで実現